

第一次世界大戦中、無名兵士たちが綴った雑誌群

◆Trench Journal, Unit Magazine とは◆

Trench(塹壕)、Unit(部隊)の名の通り、第一次世界大戦下に、その部隊のメンバーだけが読むことを前提にして、一般の兵士たちが刊行した軍隊内の雑誌です。参戦国の多くで見られ、歩兵部隊、軍隊病院、補給基地、訓練所、捕虜収容所など、前線から銃後まで、軍隊のあらゆる部署で刊行されました。ほとんどの場合は非公式で、女性を含む無名の兵士たちが寄稿し、部隊内で配布されました。

◆データベース概要◆

帝国戦争博物館、大英博物館をはじめとする多数の機関から集められた貴重な一次資料からなる、Trench journal の最も包括的なコレクションです。

- 収録形式：全文検索が可能なページイメージ
- 収録期間：1914年-1919年（一部の雑誌はこの前後の期間も収録）
- 収録数：約1,500タイトル（3万5千点、50万頁）*予定
- 刊行者の国籍：イギリス、フランス、ドイツ、カナダ、ニュージーランドなど21か国
*2014年11月現在、データベースは順次構築中です。2015年前半には全てのデータが搭載される予定です。

◆第一次世界大戦を語る◆

Trench journal は、兵士たちが第一次世界大戦 (WWI) をどう語り、その言説が軍隊の中でどのように共有されたかを証言する貴重な一次資料です。仲間内のジョークや詩、パロディ、漫画、だいやれ、スケッチなどの形で、戦時下の生活のさまざまなことが語られています。また、それを発行した部隊の置かれた状況、出来事の記録にも富んでおり、戦争の個別的な記録・記述としても高い価値をもっています。

Trench journal のなかには、部隊の結束を固め士気を高めるプロパガンダの手段として、将校の管理下に数千部も刊行されたものもあれば、タイプライター原稿や手書き原稿の形で兵士の間で回覧されたごく小部数のものもありました。その重要性は早くから認識され、大英博物館は 1915 年には収集を始めています。当データベースはこの大英博物館（現・大英図書館）のコレクションをはじめとして、多数の機関に所蔵されている様々な Trench journal を収録する、これまでにない包括的なコレクションです。すぐれた検索機能により、WWI 研究のあらゆる側面—文学、歴史、戦争、文化、ジェンダー—に、新たな視点を提供します。



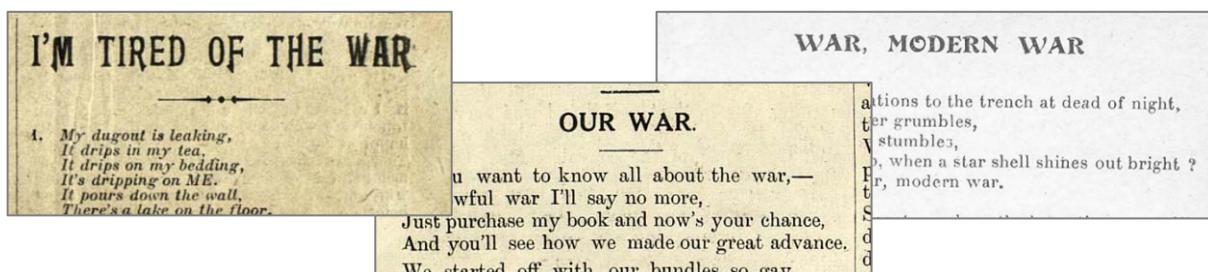
(収録例) さまざまな組織に由来する Trench journal を収録します。

- 歩兵隊 : Wipers Times , Dead Horse Corner Gazette, Howling Howitzer, Kit-Bag など
- 軍病院・病院船 : Iodine Chronicle, Happy Though Wounded など。女性を含む看護師、救急車運転手や、医師、患者らが執筆した。
- 捕虜収容所 : Prisoner's Pie, Knockaloe Lager-Zeitung など
- 市民団体 : Y.M.C.A., Church Armyなどのキリスト教慈善団体、Soldiers' Wives and Mothers' League などの市民団体が発行した雑誌

そのほか、空軍、砲兵隊、騎兵隊、工兵隊、後方支援部隊、海軍、輸送隊、退役軍人組織など

◆英国戦争詩に新たな光をあてる◆

Trench journal には多くの兵士が詩や文をよせています。ウィルフレッド・オーエン、シーグフリード・サスーン、エドマンド・ブランデンら WWI で従軍した著名な戦争詩人の作品と同じ土壤にあって、これまでほとんど知られていなかったテキストが、英国戦争詩に新しい光を投げかけます。



掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 学術情報商品部

(電話:03-6910-0518、ファックス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp) までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。